

A21c 北黄極における「あかり」近・中間赤外線サーベイ領域の遠赤外線銀河の同定とその特徴

大藪進喜、松浦周二、白旗麻衣、松原英雄、和田武彦、高木俊暢、大山陽一、中川貴雄 (ISAS/JAXA)、竹内 努 (名大高等院)、平下博之 (筑波大) 他「あかり」NEP サーベイチーム

近・中間赤外線で重点的に観測が行われた「あかり」北黄極大規模サーベイ領域において、「あかり」衛星の遠赤外線サーベイヤー (波長 $50\text{-}180\mu\text{m}$) によるスロースキャン観測を行った。比較的低い銀緯にある本領域では、遠赤外線源である銀河系内ダスト放射のコンフュージョンの影響は無視できない。しかしながら、より高い空間分解能をもつ近・中間赤外線のデータを用いることによって遠赤外線銀河を同定することができる。また、広い波長範囲のエネルギー分布を用いた銀河種族に関する詳細な研究が可能である。

1.3 平方度のサーベイ領域から、90 ミクロンでおよそ 50mJy 検出限界で約 100 個の遠赤外線銀河を検出した。そのうち、0.4 平方度の北黄極の近・中間赤外線深探査領域 (NEP-Deep) 領域にある 34 天体には、対応する中間赤外線銀河が発見されている。

本発表では、北黄極領域の遠赤外線観測・解析の詳細、検出された遠赤外線銀河の特徴、また NEP-Deep 中の遠赤外線銀河の可視域から遠赤外線までのエネルギー分布について議論する。